

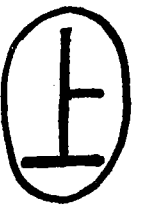
千葉労働動力

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

95.8.28 No. 4248

なぜ、どこが大失業なのか



「金融恐慌の悪夢」

七月三十一日、東京・池袋のコスモ信用組合店頭は、溢れんばかりの預金者が押しかけ、戦後初の「取り付け」(注一)騒ぎが起こった。この一日で七〇〇億円と言われる預金引き出された。まさに、バブル崩壊後、資本主義の象徴である金融資本の動揺する光景を目の当たりにしたのである。

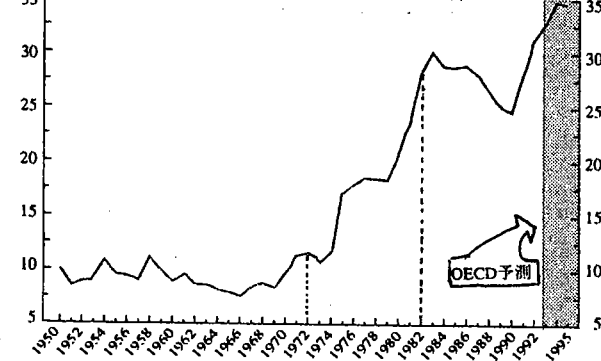
一方、このコスモ信組の「取り付け」騒ぎに端を発し、世界の為替相場は一気に「円安」へと動いた。これは、東京を発信源とする「金融恐慌」という悪夢を恐れてアメリカ、ドイツなどが協調介入を行ったためである。

こうしたバブル崩壊後の長期不況が深刻化し「大失業時代」と言われる今日、なぜ、どこが大失業なのかを改めて見てみることにする。

戦後最高の失業率

まず、世界の状況は、九四年に出されたILO(国際労働機構)報告では「全世界の就業人口の約三〇%、八億二〇〇〇万人が失業状態」にあり、「一九三〇年代の大恐慌以来最悪の危機的状况」(同報告)としている。

OECD地域の失業者数推移 (1950~95年)



五〇年代から六〇年代にはOECD地域の総失業者数平均は一千万人以下だったが、七二年から八二年のわずか一〇年間で三倍へと膨らんだ。【OECD報告より】

また、OECD(先進二五カ国経済協力開発機構)の九四年報告では「OECD二五カ国で三五〇〇万人、八・五%の失業者」があり、「現在の失業問題は深刻である。それは同時に民主主義体制の権威の失墜を含め、社会構造をバラバラにしかねないし、また国際貿易体制を崩壊させる危険性も抱えている」。「保護主義に訴えることは、過去の例が示すように、いったん開けたら全ての報復処置が飛び出すまで閉じることがほとんど不可能であるパンドラの箱を開けることになる」と報告している。

る(ここで言う報復処置とは、戦争も含むということ)。

では、日本の状況はどうかというところ、今年六月の完全失業率は三・二%(約二〇二万人)で、戦後最高を記録した。その内女性の失業率は三・四%、若年失業率は七・二%となっており、九三年の五・一%より二・一ポイントも上昇している。これはすでに欧米並になっている。そして、「今後五年間で新たに一三〇万人の失業者が発生するだろう」(週間エコノミスト七月号)といわれている。

賃下げと終身雇用崩し

さらに、賃下げと終身雇用崩しの問題である。

まず賃下げの問題では、九四年のサラリーマン世帯の実収入(名目賃金)が前年を〇・六%下回った。これは、六三年の調査開始以来初めてのことである。そして、今年九五春闘では春闘初の三%割れ(二・七九%)となった。

終身雇用の問題では、自動車関係では、トヨタが向こう五年間で正社員の割合を七割に、日産は九六年度末までに五〇〇〇人、マツダは今年度で三〇〇〇人、本田も三〇〇〇人の要員削減を打ち出している。電機関係では、松下電機が六

子会社の間接部門(直接ラインで生産にタッチしない部門、総務関係など)で六〇〇〇人(三割)、三洋電機では九五年度末で二六〇〇〇人の要員削減目標を立てているというのである。

なぜ長期不況なのか

こうした労働者への犠牲の転嫁はバブルの崩壊以降三年以上も続く深層な不況が大きな原因となっている。実質成長率も、九二年〇・三%、九三年マイナス〇・二%、九四年〇・六%と三年連続でほぼゼロとなっている。

では、こうした長期不況がなぜ続くのか大きな問題となってくる。

その理由は、第一に、資本の成長条件が喪失したと言うことである。もっとも端的に頭れているのがバブル経済の崩壊と、資本が展開する「市場」がすでに限界に達しているということである。残るは中国を初めとしたアジアだけとなっている。

第二に、慢性的な設備の過剰があげられる。特に製造業の過剰能力は、九〇年で二六・八兆

円だったものが九三年で九三・五兆円と三倍以上に膨れ上がっている。

鉄鋼関係では、新日鉄、NKK、川鉄、住友金属、神戸製鋼の鉄鋼五社は、九四年度の経常赤字は一六〇〇億円に達している。

新日鉄は、名古屋で二五〇億円を投じた最新鋭の表面処理設備が稼働できず、NKK、川鉄、住金などもバブル時代に競うように新設した同様の設備が五〇%しか稼働していない。

「業績が回復しないのは、バブル時代に踏み切った設備投資の減価償却が重く、過剰に膨らんだ固定費が経営を圧迫している」(週間エコノミスト九四年十一月号)というのが現実である。

自動車部門では、総生産能力は九〇年で一五〇〇万台となっているが、九四年度の生産台数は一一〇〇万台で四〇〇万台分が過剰となっている。

すでに市場が限界に達している以上、資本はこの過剰設備を抱え込むことになり、長期不況の暗夜行路はなお続くこととなるのである。

注一、「取り付け」

恐慌などによる経済界の不安動揺などのために、銀行が預金者の信用を失ったとき、預金者が銀行に殺到して預金の引き出しをすること。【広辞苑より】
日本では、戦前の一九二七年三月一四日、当時の片岡蔵相の「現に今日正午頃において渡辺銀行がとうとう倒産しました」という発言がもとで、翌日から渡辺銀行は店を閉め、東京横浜の中小銀行に預金者が殺到して取り付けがおこり、次々と休業していった。こうして金融恐慌の口火が切られた。